

# 「ダブルホームにおけるEポートフォリオ（キャンパスブログ）の活用目的と現状」

全学教育（教育・学生支援）機構  
浜島 幸司

## 0. 要約

当日は、「新大におけるポートフォリオ活用法を考える」話題提供として、ダブルホーム制の概略と活動状況に簡単に説明した後、実際の活動記録の状況について報告した。主に、Eポートフォリオとして搭載した「キャンパスブログ」の活用目的と現状について説明し、ホーム活動は順調にもかかわらず、参加学生に活動記録であるポートフォリオが活かされていない状況を述べ、次年度以降の課題について触れた。

## 1. 学生支援 GP について

平成19年度に採択された本学の取組「ダブルホーム制による、いきいき学生支援－地域協働による、学生の自律を目指す、予防的環境の構築－」は、以下の2点の特徴を持っている。

①学生が日常を過ごす拠点（ホーム）を、学部・学科の領域を越えて形成するものである（学部・学科の専門教育を行う従来の拠点である第一のホームに対して、新しい第二のホームは各々24名の規模で、文系・理系・医歯系の学生が集まる総合大学の特性を活かし、学年・領域が混じって構成される）。

②第二のホームでは、将来の学生が専門家として行う様々なサービスの受け手である生活者の視点に立って地域連携に取り組む。自分を生活者の立場に映すことや多様な価値観の人たちと話すことにより、将来学生が直面する困難な課題に適切に対応できる力が養われる。

## 2. 活動の記録について

ダブルホームの基盤は、各ホームの円滑な活動にある。ホーム活動は主として、平日に学内を中心に行われるミーティングと、週末・休日に行われる地域活動がある。これらの活動を通じて、学生の社会性・企画力・コミュニケーション力が養成される。有意義なホーム活動にしていくためにも、活動内容を記録し、報告する必要がある。

たとえば、ホーム活動を報告する場面として、以下の3点がある。

①年間報告書提出（年度末）【文章】：各ホームが

A4用紙2枚で執筆・提出

②活動報告会（適宜）【図表・映像】：各ホームが10～20分のスライド作成と説明

③地域・学内外に説明（随時）【言葉】：参加者が自分たちの活動・ダブルホームを説明

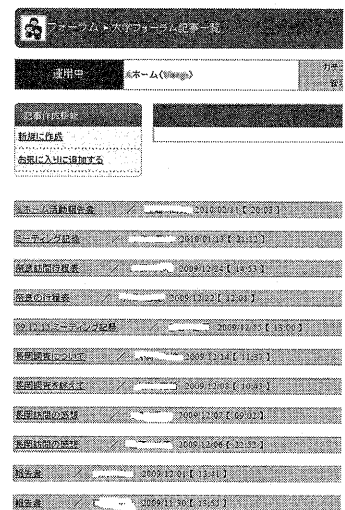
報告のための記録については、学生各自が自由に記録するもの（ホーム用ノート、スケッチブック／アルバム）と、学生支援部門が用意するもの（ホームミーティング記録報告・活動行程表・ワード／エクセルファイルによる「地域活動記録シート」・年度末・適宜おこなってもらう「振り返りシート」・「第二ホーム参加活動証明書」）がある。紙媒体の記録用紙もあれば、電子媒体の記録ファイルも用意している。

学生支援部門が、記録を電子化して保存・共有できるスペースとしては、以下の3点を用意している。

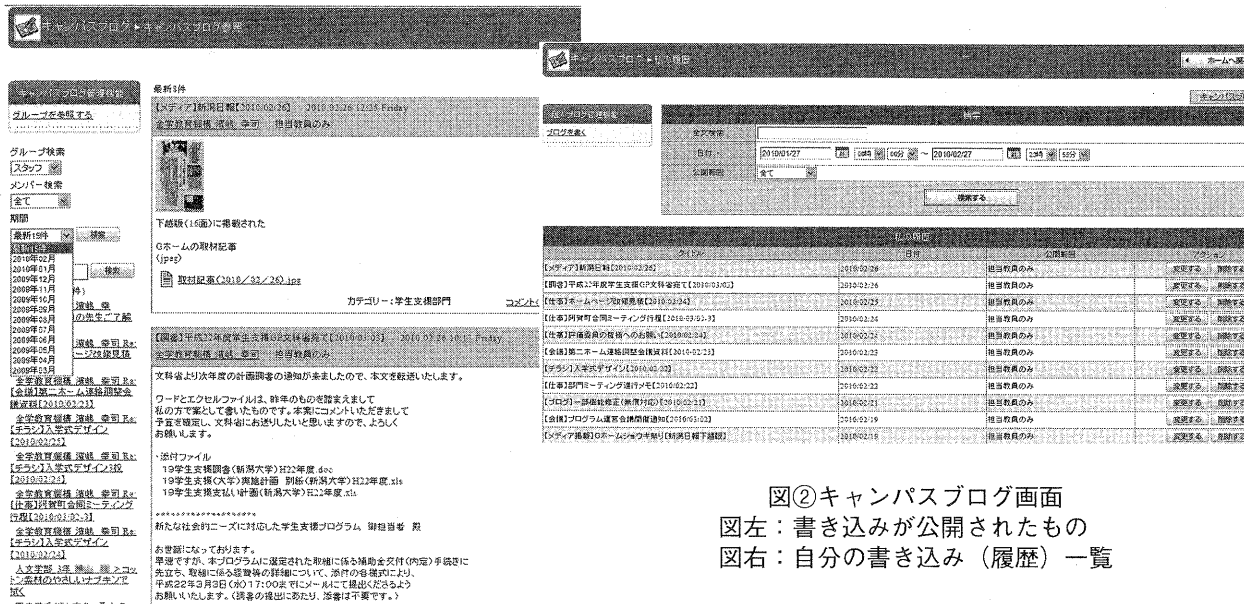
①ホームメンバー共有のミーリングリスト：ホームのミーティング活動、出欠の連絡、地域活動の予定、活動報告など情報共有を行っており、頻繁に使用されている。

②学務情報システム内「フォーラム」：ミーティング記録、地域活動の予定など、メールではやりとりできない容量の大きいファイルなどを掲載し、意見共有・交換する掲示板として活用されている（図①）。

③学務情報システム内「キャンパスブログ」：Eポートフォリオとして開発されたツールである。このシステムの理念は、活動履歴だけでなく、ツールを活用することによって創造性を養うという本質的な教育経験（ラーニング・ポートフォリオ）を目指すことにある。設置の目的は、第二のホームの学生が、地域活動等の記録や事前・事後学習を記録すると共に、ホームの学生間および学生とホーム担当教職員間の双方向の情報交換を行うためのツールとなることを目指す。その



図①フォーラム画面



図② キャンパスブログ画面  
 図左：書き込みが公開されたもの  
 図右：自分の書き込み（履歴）一覧

ための仕様として、学生たちのニーズに合わせ（「キャンパスブログ」と名称変更）、学生が日記を書く様な感覚で地域活動等の記録や事前・事後学習を記録し、写真やファイルを簡単にアップロードし、グループ間で共有できることを重視し、②「フォーラム」と同様のことができる（機能の一元化）だけでなく、必要に応じてグループ外へも公開できる（機能の多様化）ことを予定している。具体的なイメージは図②のようになっている。

ホーム参加メンバーをグループ単位とし、各自が公開範囲（個人・担当教職員・グループ全体）を設定することができる。閲覧した記事（書き込み）に他のメンバーがコメントすることが可能である。また、個人の書き込んだ履歴が確認できる仕組みも用意している。自分が何を書いたのかデータベースとして、検索する機能も併せ持ったものである。平成20年度に業者と折衝を行い、平成21年度より、本格的に「キャンパスブログ」システムが稼働した。

しかしながら、使用状況は活用されているとはいえない。使っているのは、19ホーム中、数ホームにとどまっている。学生支援部門からは、操作マニュアル（概要添付資料）を作成したが、見ていない学生が多数いると思われる。しかし、全く使用されていないわけではない。「モノは試しに」使用してみた学生がいるのは事実である。その後、次の書き込みが続かない。また、細々と自分の活動・感想を書き込む学生もいたが、コメントのフォローがないためか、いつのまにかフェードアウトしているものが散見される。

唯一、1ホームのみ活発（広報プロジェクトを担当するホーム）なのが救いである。活用されている背景として、活動プロジェクトの計画を発信し、そこでメンバー（教員・学生）のコメントがなされていることがある。使用しなければ活動に結び付かないという、

メンバー内に意識が共有されており、その結果、次の計画・作業について議論を継続するという「良い循環」が生じている。

「キャンパスブログ」活用状況から明らかになった問題として、6点が挙げられよう。

①学生は文章による記録を書かない：箇条書きでの報告はできても、長文および説明文を書くことが苦手である。

②活動意欲に個人差がある：ホームは学生の居場所としての活動目的であり、単位取得のための勉強中心ではなく、地域活動の楽しさを重視している側面が強い（活動は単位化されていない）。おそらく、現時点では書き込みは楽しい作業とはいえないのだろう。

③ホームの成果を重視している：ホームとしてのミーティング記録の配信は活発になされているが、個人の記録は可視化されない。

④学務情報システムへアクセスしない：「キャンパスブログ」は学務情報システムにログインしなければ閲覧・書き込みすることはできない。メールは携帯に転送することができるため、すぐレスポンスすることができる。しかし、学務情報システムはそもそも授業履修登録・連絡通知を見る以外は時々参照する程度だと学生から聞いたことがある。

⑤ヘビー／ライト・ユーザーによる温度差：学外の商用サイトが実施しているブログになじみの薄い学生も多い。そういうライト・ユーザー側の学生からすると、メンバー限定と狭い範囲で公開されるブログであっても何を書いたらよいのか、書いたものがどう読まれるのかといった、書き込みへのためらいが感じられるという。返答のコメントに不安感が強い学生も存在する。

⑥活動記録を評価する体制ができていない状況：これは、記録する意義を参加学生および担当教職員への

説明不足に起因している。

### 3. 授業科目での活用

問題点を解決するためには、学生たちに個人の記録を書き込むことを授業科目内で教え、実践することが一案と考える。しかし、本取組は、書き込むことが主たる活動ではない。まずは、活動に参加しなければ、記録もできない。ホームとして、毎回、出席させ、積極的にグループワーク、調べ学習に参加を促す準備が必要である。この基盤が形成された上で、グループ内の活動と、そこから自分が得た内容を書かせることを促すことができる。

おそらく書かせるだけでは、いずれ何もしなくなる。そのためにも、提出を呼び掛け、操作が簡単であることを丁寧に説明し、「キャンパスブログ」アクセスを必須にし、学習履歴を重ね、データベース化させるトレーニングを積む必要がある。また、学生相互の学習成果となるべく、自分の書き込みだけでなく、仲間の記録に対しても、徐々にコメントするように促すことも説明しなければならない。

記録の提出を義務化するだけでは、モチベーションもやがては失せていくだろう。主体的に関わってもらうためにも、自分の成果がこの記録（履歴）であることを何度も説明する必要がある。記録を重ねることが

重要なのではなく、書き溜めた記録の中から、自分の成長を知り、省察をしていくことが大事であることも指導する。このデータベースをもとに、学習の成果を最終レポートとして執筆できたか、教員が評価することで自分の学習のために書き込みをしていることを体得させることができる。

学生支援部門では、平成22年度第1期に個性化科目「ソーシャル・スキルズ」(2単位)を開講する(図③)。本科目は、ダブルホーム活動を進めるにあたって必要とされる社会的スキルを養成することが主たる目的である。加えて、授業を通じて、個人の学習記録の大切さを訴え、自主的に「キャンパスブログ」へ書き込みを行う習慣を形成する。課外活動ではなく、授業内の課題として取り入れることで、今後のダブルホーム活動に向けた記録として残してもらいたい。

### 4. まとめ—今後の課題—

学生支援 GP は平成22年度で終了となる。平成23年以降は大学独自の取組として、ダブルホーム活動をどのようにしていくかが問われている。この活動の中に、ポートフォリオがどのように位置づけられるのか、併せて検討されなければならない。

たとえば、ということで3つの課題を挙げておく。

①学生の自主性と自主性を培うためのサポートにつ

科目名	ソーシャル・スキルズ		
担当教員	松井 賢二 濱嶋 幸司		
対象学年		開講番号	100G3225
講義室		開講学期	第1学期
曜日・時限	水5	単位数	2
授業形態	資格		
分野	75,74	水準	01
対象学部等	全学部		
聴講指定等	1年次及び編入初年次学生		
科目の概要	ソーシャルスキルとは、社会生活を送るにあたり必要とされる主として人間関係に関わる技能・技術を意味する。本授業では、学部学年を越えた仲間を作り、地域に向向いて人々の暮らしや歴史に触れ、そこから地域が抱える課題を見つけ、解決方法を考える過程を体験する。		
科目のねらい	ソーシャルスキルを養成する。具体的には、「対人関係構築能力」「社会性」「協調する能力」「コミュニケーション能力」を身につける。そのために、地域活動の初期段階として、仲間づくりをスムーズに行い、地域での活動体験を通じて積極的に課題を見つけ出し、協力して問題を解決に向けて取り組むことができるようになることを目指す。		
学習の到達目標	①グループで協力して作業を進めることができる。 ②ポートフォリオを作り、利用することができる。 ③調査の手法、基準を理解し、それらを使うことができる。 ④調べた内容を大勢の前で報告したり、質問したりすることができる。		
登録のための条件(注意)	教育・学生支援機構が運営する「ダブルホーム」活動に7月以降参加し、実際の地域活動を行うことを念頭において受講することが望ましい。		
学習方法・学習上の注意	連絡はメールで行うので、メールを読み、かならず応答をすること。やむを得ず授業を欠席する際は必ず事前に連絡をすること。		

図③ ソーシャル・スキルズ シラバス

いて：記録の書き方・やり方・進め方の指示は、そもそも必要なのか。

②学生支援活動とポートフォリオの位置づけについて：記録を要求・評価する水準（レベル）は設ける必要があるのか。

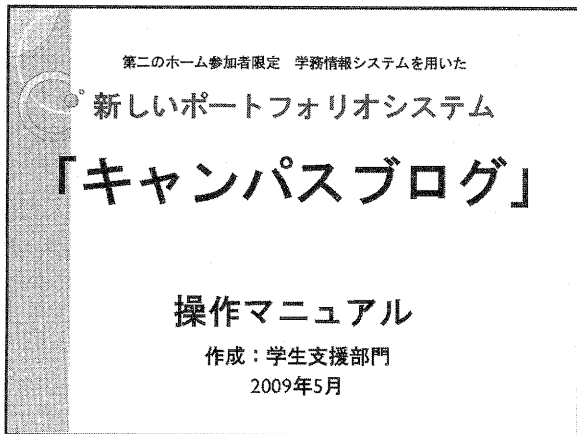
③短期的な成果と長期的な成果の方向性の明確化について：本活動で養成する能力は、在学時から卒業までの能力（skill）向上が優先なのか、それとも、卒業後の将来を視野に入れ長い目でみていくのか。

現時点では、ダブルホーム活動の中に学生の記録（ポートフォリオ）の仕様が検討されている。活動を進めるにあたって、各自の活動の記録を用意することは、学生の学習能力・教育効果を向上させるためには、このうえなく有効なツールであることは、一現場管理

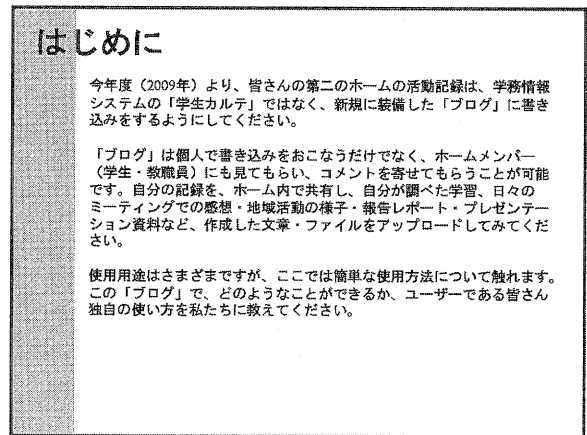
者として痛感している。学生支援 GP 最終年度に、どこまで議論を深めることができるかが、目下の課題となっている。

ともあれ、「キャンパスブログ」の活用方法の構築云々にかかわらず、学生たちが、楽しく、意味を感じ取ってダブルホームの活動を行い、かつ教育効果を高めることができる方法を、今後も学生支援部門で一丸となって、模索していく。

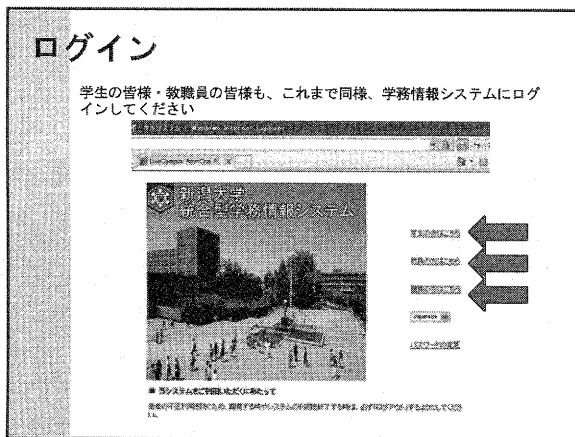
付記：本報告の内容や意見は、報告者個人の責任で発表するものであり、全学教育（教育・学生支援）機構および学生支援部門としての見解を必ずしも示しているものではありません。



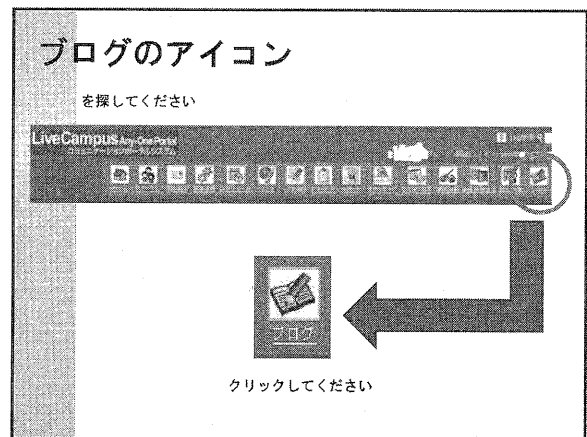
1



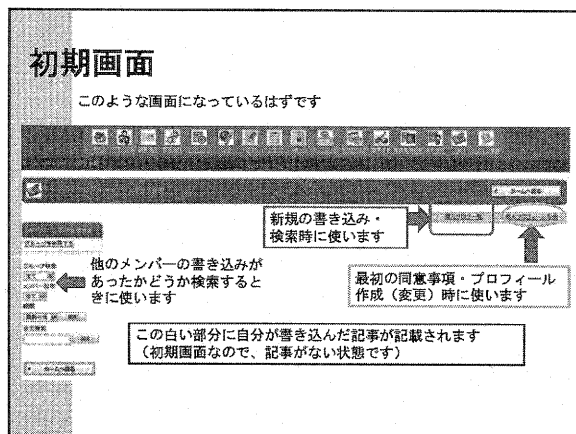
2



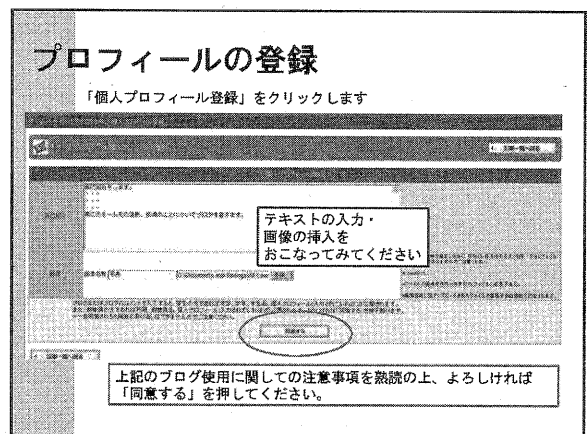
3



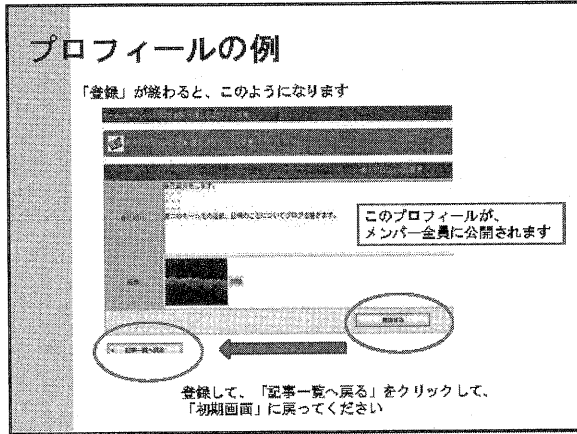
4



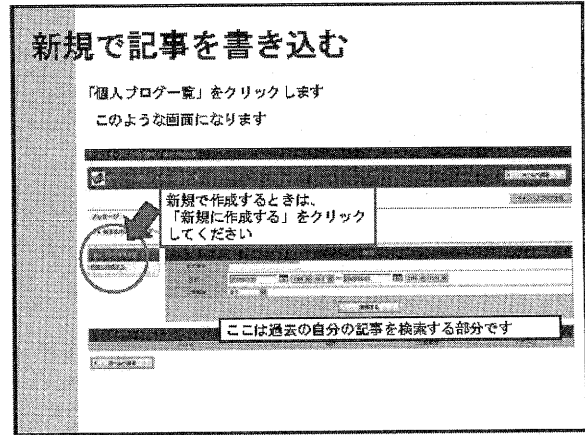
5



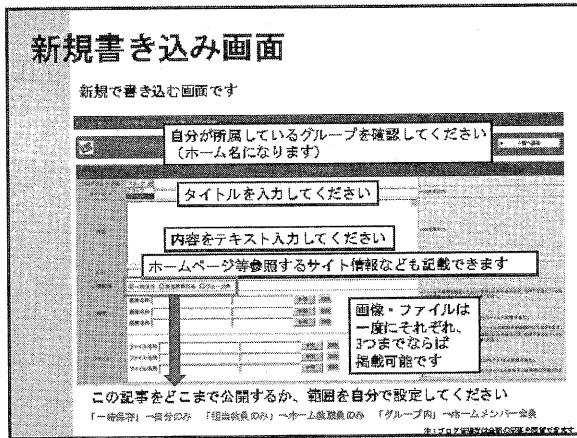
6



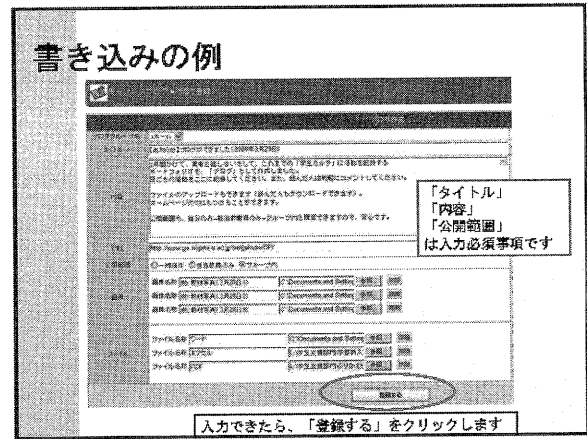
7



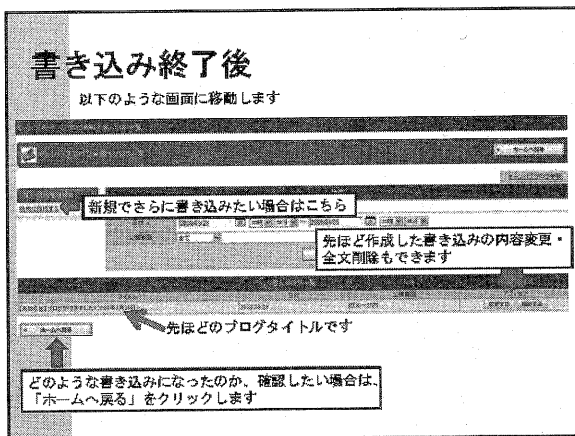
8



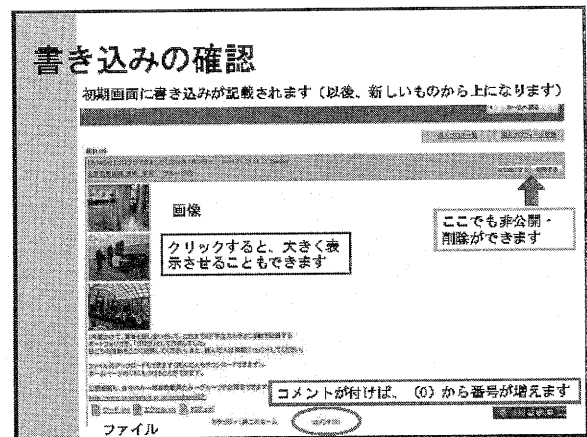
9



10



11



12

### コメントを書く

書き込みに対してコメントを寄せることができます  
(書き込み者本人も自分の書き込みに追加のコメントをすることもできます)

コメント (0) にカーソルを置いて、クリックしてみてください

13

### コメント画面

「タイトル」(必須)  
「内容」(必須)  
「画像」(任意)  
「ファイル」(任意)  
を付すことができます

入力が終わったら、「登録する」をクリックします

14

### コメント確認

登録が終わると、コメントが確認できます  
(コメントは新しいものほど、上に配置されます)

画像をクリックすると大きくできます

15

### 最新コメントの確認場所 と他のメンバーの書き込み検索

初期画面 左に 「最新コメント(■件)」と出ます(最大30件まで)

「グループ検索」では、グループ内で他のメンバーの書き込みがあったかどうか、検索することができます

①～③の順で、最後に必ず「検索」をクリックしてください

16

### 他にも

記事の検索  
グループメンバーの確認  
「連絡通知」  
などの機能が搭載されています。

今回のマニュアルでは説明を省きますが、必要に応じて追加していく予定  
であります。

どのような利用方法があるか、皆さんに教えていただきたいと思  
いますので、どんどん活用していきましょう。

17

### 最後に

学生支援部門からのお願い

実は、この「ブログ」システムは完全ではありません。

実際に使用していく中で、使いにくい点・もっと操作が簡単になる点・追加してほしい点など、出てくると思います。

このブログに対して、改善点などありましたら、ブログの書き込みでも構  
いませんし、学生支援部門のスタッフにご意見を寄せてください。メール  
でも、口頭でも構いません。

まずは3ヶ月間(2009年5～7月)ほど、皆さんに実際に使用してもらって、  
不具合など問題点を整理して、業者と交渉する予定であります。

私たちとしては、皆さんの日々の活動記録をスムーズに掲載し、活動成果  
を振り返ってもらえるツールに改善していきたいと思っておりますので、ご協力  
をどうぞよろしくお願いいたします。

問合せ先: home@ge.niigata-u.ac.jp

18